

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	ヴィクトリア女王傳（續キ）：翻譯
Author(s)	廣田，直三郎；Smith, George Barnett
Citation	龍南會雜誌， 7： 4 5 - 4 9
Issue date	1892-05-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/3831
Right	

社頭祝

由多加

神さひて宮居けるけくあるまゝにいやましきこゆやひらてのこゑ

正行朝臣

登良男

櫛の戸は朽ちはてぬとも留めてし名はものゝふのかゝみぞとなる

翻譯

ヴィクトリア女王傳（續き）

廣田直三郎 譯

ういりあむういるばーふオーす氏ハ久シキ以前ヨリ知テデいくどりヤニ得タリ氏ノ天性小兒ヲ愛スルノ情ハ其皇女ノコトヲ記セル一條ヲ見テ知ルベシ氏が千八百二十年七月一日はんなーむーおニ與ヘタル書ニ云ク

前略陳者今朝けんと公爵夫人ヨリ懇切ナル使命ヲ辱フシ即刻參殿仕候處夫人ニハ御寵愛ナル御姫君ヲ連レ御埃摺有之候姫君ハ床ノ上ナル玩弄具ナド持遊居ラレ候ガヤガテ誕生モ玩具ノ一ト相成候事今更オカシク存候御夫人ニハ御自身御姫君ノ御養育ノ勞ヲ取ラセラレ専心御盡力アルトノコトニ候又タ其節御夫人ハ「妾ハ此子ヲ生ミ落トシテヨリ間モナク此子モ妾モ親ト夫ニ先立タレ誰レヲ便ラン方モナク廣キ國中ニテ支モナク勝手モ分カンス其國語サヘモ話シ得ズ心細ノ至リナリサレド妾ハナスベキコトヲ務ムルニ猶豫セズ妾ガ行末ノ只一ノ目的ト

セル義務ニ專任セント我家親戚等ヲモ振捨テ、茲ヘハ來ヌ」ト仰セラレ候誠ニ驚キ入ンタル御家庭ノ御教育モ全ク此ノ御主旨ヨリノ事ト存候食物ハ過量ニ食スベカラズ時間ハ規則正シク定メテ仕事ニ懸ルベシ過度ニ事ヲナスベカラズトノ三ヶ條ガ御夫人ガ姫君ニ御教育ノ御定期ト承リ候けんまんとどん御住居ノ御有様ハ全ク英國普通ノ家政ノ如クニ御質撲ニ有之候尙承リ候處ニヨレバ御家御一統夏ハ午前八時御朝食御始御姫君ニハ御夫人ノ御側ニ麵包牛乳菓物ヲ載セタル小膳ニテ御喫食其ヨリ皇女ふいふハ侍講レ、せん男爵夫人ニ就テ御勉強姫君ハ一時間御遊歩或ハ御乘車十時ヨリ十二時迄御膝下ニテ御教養被遊其レヨリ姫君ハ長廊下ニテ御競走等被遊（尤モ御廊下ハ御殿ノ兩側ヨリ御殿ヲ取圍ミ居リ候又御玩弄具モ澤山此處ニ御飾備有之候）姫君ノ御乳母ヲふつくと夫人ト申シ姫君ニハばつびとト御呼有之候其レヨリ午後二時御晝食其間御夫人ニハ御中食御召有之。其レヨリ四時迄御日課御勉強其レヨリ御伺候或ハ御乘車姫君ハ其レヨリ御苑ニテ御乘馬若クハ御運動被遊、尤モ時々快晴ノ夕ニ乘ジ御家内御一統木蔭ニ御立寄艸薈上ニ御遊樂有之由ニ候、其レヨリ乳母御相手御遊樂其レヨリ御家内御集御茶會御進有之午後九時御入寢御夫人ノ御側ニ備ヘタル御寢床ニ入ラセラル、由ニ候云々

國王トヒよーヒ四世皇女第四誕生日ニ當リ金剛石ヲ以テ飾リタル油畫ヲ以テ皇女ニ送レリ此畫ハ王畫工ヲシテ精密雅美ニ已レノ像ヲ畫カシメシモノナリ王亦夫人ヲシテ其女ヲ携ヘ國宴ニ陪セ

シム次年國會ハ陛下ノ澤優ナル使命ニ報セント年金六千磅ヲ夫人ニ贈リ皇女ノ教育費ニ充ソル
ヲ決議ス是ニ於テ適當ナル教師ヲ聘スルコト必要ナリケレバ夫人ハ高僧トシテ以テ選ビ
任シタリ(でテいすは後びいたいぼいろノ僧正タリ)夫人命ジテ皇女ヲシテ日ニ必ズ聖書ヲ讀
マシム夫人大ニ信ヲでテいすニ置キ皇女王統繼續ノ緒嗣タルニ定メラレタル後碩才卓俊ノ高僧
教官タラザルベカラザルヲ勸告セラル、ニ及ビ深くでテいテ賞讃シ其人ヲ更ニルヲ拒ム然カ
レドモ若シ聖位ノ書記官ノ教官ノ要職ヲ盡スニ欠グベカラザリセバでテいハ其得ルベキノ昇
進ヲ終ヘシメテ之ヲ更メテ可ナリト内勅セリ伯爵ぐれイ言ヲ奉ジテ處理シ幾モナクでテいイチ
ちぬすたノ教師長トセリれーせん男爵夫人ハ皇女教育ノ全期間其職ニ留マリ長侍講ノ技量ヲ
顯ハセリ亦後六年教官ノ薰陶ヲ受テ皇女ハ其業大ニ進ム其非凡天性ノ才能ヲ練習スルノ故ヲ以
テ其幼少ニ關ハラズ能ク佛語獨逸語ニ熟シ以太利語ヲ能クシ傍ヲ羅旬語ニ通ジテあーじる、じ
るほーれすノ如キ書ハ極メテ容易ニ之ヲ讀メリ皇女又タ希臘語ノ講習ヲ始メ數學ヲ學ブ人
ノ困難トスル所皆皇女ノ卓越上達セザルハナシ加之音樂圖書ノ術又タ大ニ進メリ

時ニ皇女已レノ年支ヲ慕フ是ヲ記スルニ當リ一奇事アリ隨筆ス、皇女音樂ヲ好ム甚シキヲ以テ
母君其當時著名ニシテ幼年ナル技演者らいらテ招キ其堅琴ノ妙技ヲ以テ皇女ヲ樂マシメントス
一日ぐいら其最モ覺ゼル技ノ一節ヲ演ズルノ際母君皇女ハ此音樂ニ意ヲ注グコト果シテ如何許リ
ナルヤヲ見ント竊カニ其室ヲ脱シ數分ニシテ歸レバ只堅琴ノ立ツテ見ルノミ怪テ搜索スレバ則

チ知ル皇女其持タル高價ノ玩具ヲ示シテ此小演技者ヲ誘感シ共ニ愉快ニ寵前ノ敷物上ニ相坐シ
らいらナシテ其最モ好ム所ヲ自在ニ擇バシメ洽ク其持タル玩具ヲ其周遊ニ集メ居タリ

史官記シテ曰ク女王ノ教育ハ法外ト雖ニ而カモ愉快ニ其最モ好メル異父ナル太子ををばるゝト
談話セルコトニヨリけれゝあもんどノ花亭中ニ進歩セリト蓋シ太子れをばるゝハ其姪ヲ愛スル
實ニ非常ニ過ギ皇女ヲ以テ御苑ノ花ニ倣テヘ是レヨリシテ植物學平簡易入ニ説明セシヨリ幾モ
ナク皇女ハ大ニ此學ニ於テ進歩シタレバナリ

ういくどりヤガ學術ノ進歩品行ノ仕條ハれゝせん男爵夫人筆ヲ執テ之ヲ日記ニ書シ毎月一回之
ヲ太子ををばるゝト上リ其檢閲ヲ乞フ太子ガ斯ク其姪ヲ愛シ其幸福ヲ増進セシメンヲ勉ムル
注意ハ後果シテ其結果ヲ得タリ

あるべあゝる候、れゝはんと及其他二三ノ士ガ皇女ノ性質忠實ニシテ一點ノ汚ナク幼兒ノ摸範
トスベシトシ殆ンド同一様ノ文筆ヲ以テ之ヲ証シタリ其人等ノ一人ニシテ幼年ノ皇女ヲ見タル
ガ書セル内ヨリ一章ヲ摘載セン

數日前偶々けんしんぐどん花苑ヲ通過セルノ際前面ニ數人ノ貴女一人ノ幼童及二人ノ僕從ヲ
以テ成ル一隊青キ紐ヲ以テ飾リ幼童ノ乗用ニ供セント具裝セル驢馬ヲ率ユルヲ見タリ其隊ノ
狀態其人々ノ動止余ヲシテ彼等ハ此宮殿ニ住メル王族ナルベシト思ハシメタリ而シテ余ハ直
ニ余ノ想像能ク其眞ニ中リけんゝ公爵夫人殿下ガ常務ノ如ク運動シテ皇女ノ健康ヲ保ツヲ樂

ミトシ之ヲ監視セルナルヲ知リタリ已ニ王族等ニ近クバ幼少ナル皇女ハ余ノ尊嚴ナル形態ヲ見テ一揖シ母后ト皇姊ふいどゝするトニ兩手ニ由テ扶助セラレツ快濶ニ「今朝ハ」ト呼ビタリ余ハ數歩ヲ運ビテ顧眄シ其幼童ヲ注意シタルコト數分ナルガ深ク其舉動ヲ見テ喜ビタリ何ントナレバ皇女が見ル人トシテ殆ンド皆余ニ對シテナシタル如ク敬禮シタレバナリ殿下又婉姿便體其優艶活潑ナル顔面ハ健康ニシテ心質ノ善良ナルヲ徴セリ曲眉涼眼紅唇豐頰其考父ニ髣髴タルノミナラズ我英國ヲ統治シ玉ヘル王族ノ各殿下ニ肖似セリ

雜 報

○龍南會記事

本會役員撰舉規則第一項に據り本月十一日を以て本會委員を改撰せしに其結果及び委員の分擔は左の如くなれり

總務委員

林 市 藏

梅 野 實

雜誌部委員

中山文次郎

塚本繁吉

白河次郎

古森幹枝

安東俊明

村川堅固

淺川雄太郎

江口俊博

演說部委員

雜誌部委員より月番を以て演說部の事務を執る